

協力隊だより 10月号

活動開始
令和5年7月から



泉由希子

(いずみ・ゆきこ)

王滝村の皆さんこんにちは、
泉由希子です。雨女の私は山
行の計画をすると雨に降られ
ることが多く、とても困って
います。ついつい雨女の治し
方を調べてしまいました…

火打山ライチョウ生息地
回復事業ボランティアに参加

今年も火打山(新潟県妙高市)
で実施されている『ライチョ
ウ生息地回復事業ボランティ
ア』に参加しました。今回で
三回目の参加となりますが、
火打山では初めてライチョウ
を観察することが出来ました。
二日目の朝、前日私たちが
イネ科の植物を刈り取った場

所で、大好きな高山植物を二
家族(成鳥メス・二、幼鳥・六)
がついばんでいました。前日
までの作業に疲れ切っていま
したが、元気を取り戻し、残
りの作業に励むことが出来ま
した。



火打山での草刈り
の様子。



火打山での活動中に現れた
ライチョウ。

環境省の担当者の話では、
世界中で様々な種に対する保
護活動が行われていますが、
日本の保護活動は「生息地を

大切に」「慎重に」進められて
いるそうです。取り掛かるま
でに時間はかかるものの、成
果を上げるまでの時間はとて
も速いのです。一度は絶滅し
た中央アルプスでも今では百
九十羽にまで増加しました。
先日木曽駒ヶ岳を登山しま
したが、ライチョウの多さに
驚きました。人間を恐れない
愛くるしいライチョウに対し
て私たち人間が出来ることは
何か？人の手を入れて守ると
いうことは？山と健全に付き
合いながら、この活動に引き
続き参加していきたいと思っ
ています。

王滝小学校の授業で
野鳥のお話をしました

王滝小学校の遠足が田の原
三笠山で行われるということ
で、九月二十九日に小学生の、
皆さんに王滝村の野鳥のお話
をする機会を頂きました。王
滝村と野鳥の関係、野鳥の見



小学校での授業の様子

つけ方、王滝村で暮らす野鳥
の紹介など、二〇分ほどスラ
イドを使いお話をしました。
皆さんとても熱心に聞いてく
ださり、活発に質問もしてく
れました。双眼鏡の練習は大
変盛り上がりました。双眼鏡
を覗くと今まで見てた景色が
少し違って見えますよね。遠
足が楽しみです。私が野鳥に
興味を持ったのは、小学生の
時でした。図鑑を片手に自宅
周辺で野鳥を観察する日々。
自然と野鳥の声が耳に入っ
てくるようになった時、ぱあ
っと世界が広がりました。そ
の感覚は今でも忘れられませ
ん。小学生の皆さんにも、そ
んなワクワクする感覚を味わ
ってもらえたら嬉しいです。

活動開始
令和5年7月から



古川さゆり

(ふるかわ)

みなさま、きのこ採りが楽しい季節になりましたね。私の菌ちゃん農法の畝にも色々な種類のきのこがひょこひょこ顔を出しています。畝の中に菌がいっぱいいるんだなと感じます。今回は今年の菌ちゃん農法について話したいと思います。



畝から生えてきたキノコ

菌ちゃん農法とは、森の落ち葉や枝などを畝に入れて糸状菌を育て、その菌の働きで野菜を育てる自然農法です。高畝を作り、落ち葉や木の枝、

木質チップなど菌の餌となるものを入れてマルチビニールをかぶせて行います。肥料を買わなくても森の恵みで土を豊かにできるのが特徴です。

今年は私の他に二人の方が菌ちゃん農法で夏野菜栽培にチャレンジしていました。三人とも菌の餌として使用した材料が違ったので、使用したものでそれぞれのような結果になったのかとためてみます。

- ① 落ち葉＋太い木の枝＋細い木の枝
- ② 落ち葉＋枯れ草＋穀殻（＋動物の毛）
- ③ 落ち葉＋ダム湖からでた流木の木質チップ

全体的には三つともしっかり野菜が育っていました。①は今年私が行ったもので、畝によって菌の定着にばらつきがあるものの、全体的に野菜

は大きく育ちました。しかし、去年の穀殻を入れた時に比べて、育つスピードはゆっくりだったように感じます。それに対して、②と③は育ちのスピードが①より早かった気がします。おそらく穀殻や木質チップが木の枝より細かいため分解されやすいからでしょう。

菌ちゃん農法では、できるだけ多様な大きさの餌を畝に入れることを推奨しています。小さいものほど早く、大きいものは3年以上かけて分解されて糸状菌の栄養になるため、餌の大きさが多様であるほど、長期間畝が肥え、ほったらかし農業が可能になるという仕組みです。この観点からいくと、私の畝は日当たりが短く餌の分解速度が比較的遅い割に、今年はサイズの大きい餌を多く使用しているので、今年よりも来年以降の方が分解が期待できるのではないかと考えています。

②や③は今年入れた餌が細かい分、餌の残量を確認しながら来年に向けてまた材料を少しずつ足す作業が必要になるかもしれません。

みなさんやはり最初の畝立てが一番苦労したようですが、一度作ってしまえば、耕起により土の団粒構造を崩す必要もないし、余計な肥料も必要ないからこれからも続けたいとおっしゃっていました。森で拾った枝や落ち葉、穀殻、さらにはダム湖の流木チップまで活用できる菌ちゃん農法。自然の恵みを活かせるのが魅力です。これからも工夫を続けていきたいと思っています。



九蔵の畑で冬野菜の植え

発行：王滝村役場

編集：協力隊伴走支援委託業者

合同会社R&T滝越